様式３

平成２６年度　発達障害に関する教職員育成プログラム開発事業
成果報告書（概要版）

実施機関名（　国立大学法人兵庫教育大学　）

１．テーマ

「大学院と学部が協働する研修プログラム開発」
－　ニーズ調査をふまえた学びのデザイン構築とエッセンシャル版作成　－

２．問題意識・提案理由

通常学級での発達障害への対応や配慮の重要性が高まっている。行動問題などへの喫緊の対応がある一方で,「特別でない特別支援教育」と言われるように，本来の学校教育や授業・学級経営の力量を高めることは，対象となる子どもへの支援・配慮へつながる。

大学院のミドルリーダー育成と学部養成（若手教員研修）を一体として考え，研修システム化することが重要である。ミドルリーダーとしての研修を受けた教師が，学部段階の教育の一端を担うことで，自らの学びを伸張することが期待される。

３．目的

本学大学院特別支援教育コーディネーターコースの取り組みを活かしながら，新たに学部養成段階の教育を見据えたカリキュラムづくりを目指す。これにあたって，コースの現職教員大学院生が，学部授業でファシリテート役を務めるようカリキュラムを組み立てる。

本年度は，学部３年次の課外プログラム授業を実施するとともに，大学院ではコミュニケーションに関する新設授業と既存の通常学級に関する授業のリンクを図り，これらの効果について検討する。また，現職教員を対象とした公開講座等でワークショップの試行をおこない，エッセンシャル版作成へつなげる。

４．主な取組内容

学部における取り組み：３年次学生を対象にした授業科目「発達障害の理解」の改編，課外プログラム「通常学級における特別支援教育の実践演習」(M2 生が参画）を実施した。２年次生向けの課外プログラム「通常学級における子どもの教育ニーズ」(M1 生が参画）を実施した（２回目)。また，４年次授業科目「教職実践演習」担当者向けのレクチャー，ならびに公開講座「子どもの創造力スイッチオン！！！- インクルーシブ教育へ向けて -」を実施した。

大学院における取り組み： M1 前期に「特別支援教育リーダーのための創発的コミュニケーション」「特別支援教育と通常学級の授業づくり・学級経営」を新設し，後期の「特別支援教育授業方法論」へのリンクを図った。これらの授業と連動する企画として公開講座「コミュニケーション力を育む演劇ワークショップ」を開催した。

成果普及：全国向けの公開講座「第３回発達障がい支援アドバンスド講座」を開催し，指導主事などを対象に「コンサルテーションを学ぶ演劇ワークショップ」を実施した。また，教員の自主研究会においてエッセンシャル版「演劇づくりで学ぶコンサルテーションワークショップ」を計２回実施した。委託事業中間報告書 2014 を作成し，都道府県教育センターなどへ送付した。

５．主な成果

学部における取り組み:「発達障害の理解」受講者のうち，課外プログラムに参加している学生と参加していない学生間で，①基本的知識に関する問題と②授業内容についてより深い理解を問う問題の成績について比較した。①の成績では両グループ間に違いは認められなかったが，②については課外プロ参加グループが非参加グループと比較して有意に成績が良かった。この結果は，課外プロ参加グループの特別支援教育への関心・興味がアクティブ・ラーニングへつながっていることを示唆する。「通常学級における特別支援教育の実践演習」においては，発達障害のある子どもが学ぶ通常学級を参観すること，担任教師へインタビューすることを目的として，「視点ガイド」を作成した。さらに，学校見学での学びを活かして，模擬授業づくりワークショップをおこなう実施案を作成した。

大学院における取り組み:「特別支援教育リーダーのための創発的コミュニケーション」でのアンケート分析から，現職院生がグループワークにおいて，ワークショップのプロセス（共感→問題の定義・共有→アイデアの発散・収束）のうち，共感を重視して話し合いを進めていることがわかった。「特別支援教育授業方法論」では，授業期間中に開催した公開講座「コミュニケーション力を育む演劇ワークショップ」に参加した経験を参考にして，演劇づくりを考えるグループが見られた。

成果普及:　エッセンシャル版作成へ向けて,「演劇づくりによるコンサルテーション研修」の３時間バージョンの開発とテキスト化を進めている。

６．今後の課題と対応

学部における取り組み：来年度は，課外プログラム参加者が４年次で「応用教育実習」と「教職実践演習」を受講する。これへ向けて，視点ガイドの内容と授業担当者への説明のあり方について検討をおこなう。この２つの授業を含めて，課外プログラム全体の評価方法について議論を進める。終了時には，課外プログラムの正規授業化へ向けての検討を開始する。

大学院における取り組み：M1 前期の「特別支援教育リーダーのための創発的コミュニケーション」では，ワークショッププロセスの「問題の定義・共有」段階での難しさが明らかとなった。この段階をファシリテートするための研修上の工夫（例えば，見える化による対話の促進）について今後さらに検討する。この授業で経験したことが，必ずしも後期の学校場面を想定した「特別支援教育授業方法論」で活かされなかった。両授業の効果的なリンク方法についての工夫を考えていく。さらに，学部課外プログラムへ現職教員の院生が参画した意義について最終的な検証を実施する。

成果普及:「演劇づくりによるコンサルテーション研修」のエッセンシャル版作成にあたって，台詞例の具体的提示なども必要であることがわかってきた。これについては，さらに試行を重ねて，参加者のアンケート分析などをおこなう。また，演劇づくりの実際例についてはビデオ教材等の提供も視野に入れていく。

７．問い合わせ先

組織名：

(1) 担当部署　　教育研究支援部研究支援課研究支援チーム

(2) 所在地　　兵庫県加東市下久米９４２－１

(3) 電話番号　　０７９５－４４－２３８０

(4) FAX 番号　　０７９５－４４－２３０２

(5) メールアドレス　office-kenkyu-t@hyogo-u.ac.jp